

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム
文書バージョン: 4.2 – 2015-11-12

トランスレーションマネジメントツールユーザガイド



目次

1	ドキュメント履歴.....	5
2	トランスレーションマネジメントツールの紹介.....	6
2.1	トランスレーションマネジメントツールの紹介.....	6
2.2	翻訳可能なリソース.....	7
2.3	Web Intelligence の翻訳について.....	8
2.4	ユニバースデザインツールから取得したユニバースの翻訳の概要.....	8
2.5	インフォメーションデザインツールからのユニバースの翻訳の概要.....	9
2.6	トランスレーションマネジメントツールで使用される用語.....	9
2.7	認証とセキュリティの概要.....	11
3	ツールをご使用の前に.....	13
3.1	ログオンする.....	13
3.2	ログインパスワードを変更する.....	13
3.3	トランスレーションマネジメントツールウィンドウの概要.....	14
	翻訳エディタビューについて.....	14
	言語管理ビューについて.....	15
	テキストエディタビューについて.....	16
	フィルタビューについて.....	17
	セルプロパティビューについて.....	17
	ヘルプビューについて.....	18
3.4	トランスレーションマネジメントツールウィンドウのカスタマイズ.....	18
3.5	基本設定の設定.....	19
	製品言語を設定する.....	19
	デフォルトのファイルの場所を設定する.....	20
	自動的に追加されるようにロケールを設定する.....	20
	使用頻度の高い言語を設定する.....	20
	自動入力オプションを設定する.....	21
	書式のサンプルデータを設定する.....	21
4	翻訳ワークフロー.....	22
4.1	翻訳ワークフローの概要.....	22
4.2	翻訳済みのロケールの管理方法.....	22
4.3	セキュリティ権限と翻訳権限の概要.....	23
4.4	同時翻訳の概要.....	24
4.5	CMS リポジトリから取得したリソースの翻訳の概要.....	24

	翻訳対象のコンテンツを CMS リポジトリ内のリソースからインポートする方法	25
	CMS リポジトリ内でのソースリソースへの翻訳のエクスポートの概要	26
4.6	ローカルリソースの翻訳の概要	26
	翻訳対象のコンテンツをローカルリソースからインポートする	26
	ローカルに保存したリソースに翻訳をエクスポートする	27
4.7	TMGR 形式の概要	27
5	ドキュメントの翻訳	28
5.1	ドキュメントの言語を追加および削除する	28
5.2	フォールバック言語を設定する	28
5.3	翻訳エディタで文字列を翻訳する	29
5.4	テキストエディタで文字列を翻訳する	30
5.5	翻訳エディタで文字列を並べ替える	30
5.6	翻訳エディタで文字列を検索および置換する	31
6	書式の設定	32
6.1	翻訳エディタでデフォルトの書式を設定する	32
6.2	書式エディタについて	32
6.3	書式エディタを起動する	34
6.4	カスタム書式エディタを起動する	34
6.5	カスタム書式を作成する	34
6.6	カスタム書式を削除する	35
7	ステータスの管理	37
7.1	翻訳ステータス	37
7.2	メタデータ翻訳履歴の概要	38
7.3	リストビューをステータスでフィルタする	38
7.4	セルのプロパティを変更する	39
7.5	セルのステータスを変更する	40
8	XLIFF を使用したドキュメントの翻訳の交換	41
8.1	XLIFF ファイルについて	41
8.2	XLIFF ファイルのエクスポートおよびインポート	42
8.3	XLIFF にエクスポートする - ソースの選択	42
8.4	XLIFF にエクスポートする - ターゲットの選択	43
8.5	XLIFF ファイルからインポートする	44
9	リファレンス	45
9.1	ロケールおよびその優先ロケールの一覧	45
9.2	数値書式トークン	49
9.3	日付および時刻の書式トークン	51

9.4	トランスレーションマネジメントツールでサポートされる InfoObject の種類.	54
-----	--	----

1 ドキュメント履歴

以下の表は、最も重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1	2013 年 5 月 10 日	このドキュメントの初版です。
SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1 サポートパッケージ 4	2014 年 6 月	Analysis, edition for OLAP の翻訳サポートが追加されました。
SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.2	2015 年 11 月	ブランド変更によりガイドを更新しました。

2 トランスレーションマネジメントツールの紹介

2.1 トランスレーションマネジメントツールの紹介

トランスレーションマネジメントツールは、BusinessObjects Enterprise の国際配備のためのローカライゼーション要件をサポートするフレームワークを提供します。

ユーザは次の種類のドキュメントで、各自の言語を使用して作業できます。

- ローカルまたはリポジトリ内に保存されているリソース: Web Intelligence ドキュメント、ユニバースデザインツールのユニバース (.unv)。
- ローカルまたは共有プロジェクトフォルダ (リポジトリ内) に保存されているリソース: インフォメーションデザインツールによって生成されたユニバース用のビジネスレイヤとデータファンデーション。
- リポジトリ内だけに保存されているリソース: Analysis, edition for OLAP で作成したワークスペースおよび Dashboard Design で作成したダッシュボード、BI ワークスペースで作成したワークスペース、Crystal Reports for Enterprise ドキュメント、およびほとんどの InfoObject。

多国語に通じた対象者のために、ユニバース作成者またはレポート作成者は、各言語でユニバースまたはドキュメントを作成する代わりに、1 つのドキュメントを作成し、それをトランスレーションマネジメントツールで複数言語に翻訳することができます。

翻訳は、ユニバースおよびレポートドキュメントに保存され、レポート時に読者の言語で表示されます。

翻訳するコンテンツをリポジトリからインポートする場合は、ツールは翻訳サーバを使用して他のモジュールと通信します。翻訳サーバの詳細については、管理者ガイドを参照してください。インポートされたコンテンツは、TMGR 形式でローカルに保存されます。TMGR 形式のファイルは、トランスレーションマネジメントツールと翻訳サーバ間での交換を管理する目的でも使用されます。

ツールには、次の機能が含まれます。

- ほとんどの SAP BusinessObjects resources リソースにあるメタデータを翻訳する機能: 分析ワークスペース、ユニバース、Web Intelligence レポート、および Crystal Reports for Enterprise ドキュメント。
- 社内翻訳用に設計されたインタフェース。
- 日付、時間、および数字のカスタム書式の定義を容易にする書式エディタ。
- 約 130 のロケールを管理する機能。
- すべての Central Management Server (CMS) 認証モード、およびスタンドアロンモードのサポートを含む、SAP BusinessObjects Enterprise との完全統合による Enterprise デプロイメント。
- リポジトリを使用しない中堅市場 (小規模) またはローカルのデプロイメント。
- XLIFF (XML Localization Interchange File Format) ファイルを使用した外部翻訳者とのコラボレーション。この形式はプロの翻訳者に使用されており、多くの翻訳ツールと互換性があります。
- 同時翻訳とオフライン翻訳を実行する機能。
- 翻訳プロセス全体を通じた翻訳ステータスのサポート。

注記

トランスレーションマネジメントツールは Windows プラットフォームで動作しますが、他のプラットフォームで動作する Central Management Server と接続することができます。

注記

このツールで使用する XLIFF の標準は、トランスレーションマネジメントツールの前のバージョンとは互換性がありません。特に、このツールは、以前のバージョンのトランスレーションマネージャで生成された XLIFF ファイルを読み取ることができません。

関連情報

[Web Intelligence の翻訳について \[8 ページ\]](#)

2.2 翻訳可能なリソース

次のリソースを翻訳できます。

表 1: 翻訳可能なリソースの種類

リソースの種類	アクション
Analysis ワークスペース	CMS リポジトリに格納され、Analysis バージョン 4.1 SP4 以上に保存されます。
Web Intelligence レポート	ローカルに、または CMS リポジトリに格納されます。
ユニバースデザインツールで作成したユニバース	ローカルに、または CMS リポジトリに格納されます。
インフォメーションデザインツールで作成したデータファンデーションまたはビジネスレイヤ	ローカルに、または CMS リポジトリの共有プロジェクトフォルダに格納されます。
Crystal Reports for Enterprise ドキュメント	CMS リポジトリに格納され、BI 4 で作成されます。
Dashboard Design で作成したダッシュボード	CMS リポジトリに格納され、BI 4 で作成されます。
BI ワークスペースおよびほとんどの InfoObject とともに作成したワークスペース	CMS リポジトリに格納されます。

制限

- トランスレーションマネジメントツールでは、Crystal Reports 2011 または 2013 で作成したドキュメントはサポートされません。
- トランスレーションマネジメントツールでは、Web Intelligence ドキュメント (wid)、Universe Designer ユニバース (unv)、および一般の InfoObjects の、以前のバージョンのリソースのみを翻訳できます。
- トランスレーションマネジメントツールでは、クエリ名は翻訳されません。

2.3 Web Intelligence の翻訳について

トランスレーションマネジメントツールを使用して、Web Intelligence XI 3.0 以降で作成したレポートメタデータ (.wid ファイル) を訳すことができます。これには、次のメタデータが含まれます。

- レポートの名前
- クエリの名前またはデータプロバイダの名前
- プロンプトテキスト
- ローカル変数の名前
- アラータの名前と説明
- Web Intelligence 式 (テーブルセルなど) に含まれるコンテンツ、アラータメッセージ、またはレポート変数 (GetLocalized 関数の使用を要求されている場合)

デフォルトでは、Web Intelligence レポートに含まれるレポート式のコンテンツは翻訳されません。レポート式の文字列をトランスレーションマネジメントツールでの翻訳で利用できるようにするには、レポートの設計時にレポート作成者が GetLocalized 関数を使用する必要があります。GetLocalized 関数の詳細については、*SAP BusinessObjects IWeb Intelligence Guide* における関数、式、計算の使い方を参照してください。

関連情報

[インフォメーションデザインツールからのユニバースの翻訳の概要 \[9 ページ\]](#)

2.4 ユニバースデザインツールから取得したユニバースの翻訳の概要

次のものを翻訳できます。

- ユニバースの名前および説明
- コンテキストの名前および説明
- クラスの名前および説明
- オブジェクト名、説明および書式
- フィルタの名前および書式
- カスタム階層の名前
- プロンプトテキスト
- 入力列 (トランスレーションマネジメントツールの中ではプロンプトとして識別されます)

派生ユニバース

トランスレーションマネジメントツールを使用して、1 つまたは複数のコアユニバースに基づく派生ユニバースを開く場合は、派生ユニバースのコンテンツのみを翻訳する必要があります。ユーザが派生ユニバースについてレポートする場合は、コアユニ

ベースおよび派生ユニバースからの翻訳が使用されます。コアユニバースのクラスフォルダにあるオブジェクトが派生ユニバースに含まれている場合は、これらのオブジェクトは名前のないフォルダの中に表示されます。

レポートアプリケーションにより派生ユニバースのコンテンツが表示される際、利用できる翻訳には、派生ユニバースに対して定義された言語とコアユニバースに対して定義された言語が含まれます。アプリケーションは、次のルールに従って、派生ユニバースのフォールバック言語を決定します。

1. 派生ユニバースに対してフォールバック言語が定義されている場合、アプリケーションは、このフォールバック言語を使用します。
2. 派生ユニバースに対してフォールバック言語が定義されていない場合、アプリケーションは、コアユニバースのフォールバック言語を調べます。
3. どのコアユニバースに対してもフォールバック言語が定義されていない場合、ユニバースにはフォールバック言語がありません。

2.5 インフォメーションデザインツールからのユニバースの翻訳の概要

インフォメーションデザインツールから生成されたユニバースは、直接的には翻訳されません。トランスレーションマネジメントツールは、インフォメーションデザインツールで作成したデータファンデーションレイヤとビジネスレイヤを独立して翻訳できます。これらのリソースは、ローカルのインフォメーションデザインツールプロジェクト、または CMS リポジトリの中に保存されている共有のインフォメーションデザインツールプロジェクトの中に格納できます。

これらのリソースを翻訳した後、インフォメーションデザインツールを使用して、これらの翻訳を含むユニバースを再公開できます。

関連情報

[翻訳ステータス \[37 ページ\]](#)

[トランスレーションマネジメントツールで使用される用語 \[9 ページ\]](#)

[言語管理ビューについて \[15 ページ\]](#)

[フォールバック言語を設定する \[28 ページ\]](#)

2.6 トランスレーションマネジメントツールで使用される用語

用語	説明
ロケール	ロケールは、言語と地域を定義します。言語は、複数の国に関連付けることができます。たとえば、フランス語(fr)は、フランス(FR)、ベルギー(BE)、およびスイス(CH)の各国で話されている言語です。スイスで話されているフランス語のロケールは、フランス語(スイス)または fr-CH です。

用語	説明
	<p>ロケールは、データの並べ替え方法および日付と数値の書式設定方法も定義します。</p> <p>i 注記</p> <p>トランスレーションマネジメントツールでは、言語とロケールは同義に使用される用語です。</p>
ロケールの略語	<p>ロケールの略語は、言語名の略語の後ろに国名の略語が続きます。</p> <p>ロケールの略語は、オペレーティングシステムまたは使用しているアプリケーションによって表示が異なります。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows: フランス語(フランス) Java: fr_FR Sun Solaris: fr_FR.ISO8859-1 InfoView 6.5.1: フランス語(フランス)[fr-FR]
優先ロケール	優先ロケールは、ドキュメントで代替言語が定義されていない場合に代替言語として使用される、事前に定義されているロケールです。各言語に対して、1 つの優先ロケールが定義されます。
製品言語	製品言語は、アプリケーションインタフェースが表示される言語です。
優先表示ロケール(PVL)	優先表示ロケールは、アプリケーションでのレポートおよびクエリオブジェクトの表示に使用される、ユーザの優先言語です。
ソース言語	XLIFF (XML Localization Interchange File Format) にドキュメントをエクスポートするたびに、生成された XLIFF ファイルのソース言語として識別されるソース言語を定義します。
フォールバックロケール	<p>翻訳済みドキュメントを表示する際にユーザの優先表示ロケール (PVL) で利用できる翻訳がないときに表示するフォールバックロケールを定義できます。</p> <p>i 注記</p> <p>ドキュメントでフォールバックロケールとして定義できるのは 1 つの言語のみなので、多くの場合、フォールバックロケールを未定義のままにして優先ロケールのデフォルトの代用に依存した方が柔軟性が高くなります。</p>
翻訳ステータス	すべての言語のどの文字列も、翻訳ステータスに関連付けられます。このステータスは、文字列が、翻訳済み、レビュー済み、または変更済みであることを示します。また、このステータスにより、翻訳がレポートで表示可能かどうかを判別されます。

関連情報

[ロケールおよびその優先ロケールの一覧 \[45 ページ\]](#)

[翻訳ステータス \[37 ページ\]](#)

[インフォメーションデザインツールからのユニバースの翻訳の概要 \[9 ページ\]](#)

[製品言語を設定する \[19 ページ\]](#)

[フォールバック言語を設定する \[28 ページ\]](#)

2.7 認証とセキュリティの概要

ツールは、セントラル管理コンソール (CMC) で設定されたログイン情報とアプリケーション権限を使用してアクセスを制御します。

トランスレーションマネジメントツールにログインする場合は、次のいずれかのログインモードを使用します。

モード	説明
接続済みモード	<p><i>Enterprise</i>、<i>LDAP</i>、および <i>Windows AD</i> という 3 種類の認証があります。</p> <p>これらの認証の種類を利用すると、CMS リポジトリへの接続、ドキュメントの CMS へのインポートと CMS からのエクスポート、および CMS ログインパスワードの変更を行うことができます。</p> <p>ローカルディレクトリに保存されている、セキュリティで保護されていないリソースを開いて翻訳することができます。</p>
スタンドアロンモード	<p>スタンドアロンモードでツールを使用する場合、認証は必要ありません。</p> <p>ローカルディレクトリに保存されている、セキュリティで保護されていないリソースだけを翻訳できます。</p> <p>ドキュメントがセキュリティで保護されておらず、すべてのユーザ向けに保存されている場合を除き、CMS リポジトリからインポートしたドキュメントを開くことはできません。</p>

接続済みモードまたはオフラインモードでトランスレーションマネジメントツールにログインするには、トランスレーションマネジメントツールに対して付与されるトランスレーションマネージャにログインして *CMC* でオブジェクトとして表示する権限が必要です。

Central Management Server (CMS) リポジトリ内のフォルダやオブジェクトへのアクセスは、SAP BusinessObjects Enterprise 管理者から付与される権限によって制御されます。ドキュメントを開いて翻訳を編集するには、次の権限が必要です。

- ユニバースで翻訳を開いて編集するには、ユニバースに関して**オブジェクトを表示する**権限と**オブジェクトを編集する**権限が付与されている必要があります。
- Web Intelligence ドキュメントで翻訳を開いて編集するには、ドキュメントに関して**オブジェクトを表示する**権限、**オブジェクトを編集する**権限、および**オブジェクトに関連するファイルをダウンロード**権限が付与されている必要があります。
- また、ユニバースおよびレポートオブジェクトを含むフォルダに関しては、**オブジェクトを表示する**権限が付与されている必要があります。

ユーザ権限の説明と定義の詳細については、*SAP BusinessObjects Enterprise* 管理者ガイドを参照してください。

関連情報

[ログオンする \[13 ページ\]](#)

3 ツールをご使用の前に

3.1 ログオンする

Central Management Server (CMS) に接続しているツールを使用するには、ユーザ名、パスワード、および管理者が設定した適切な権限が必要です。スタンドアロンモードでトランスレーションマネジメントツールを使用する場合、認証は必要ありません。

トランスレーションマネジメントツールは、SAP BusinessObjects Enterprise クライアントツールとともに自動的にインストールされます。

1. ツールを起動していない場合は、これを起動します。Windows の [スタート] メニューで、**すべてのプログラム** > **SAP BusinessObjects XI 4.0** > **SAP BusinessObjects Enterprise クライアントツール** > **トランスレーションマネジメントツール** を選択します。
[ユーザ確認] ダイアログボックスが表示されます。
2. [認証] ボックスで認証の種類を選択します。ツールをスタンドアロンモードで使用する場合は、[スタンドアロン] を選択して [OK] をクリックします。
3. その他すべての認証の種類では、[システム] ボックスに CMS が配置されているシステムの名前を入力するか、システムの名前を選択します。
認証の種類の詳細については、関連トピックを参照してください。
4. [ユーザ名] ボックスにユーザ名を、[パスワード] ボックスにパスワードをそれぞれ入力します。
5. [OK] をクリックします。

i 注記

ログインすると、トランスレーションマネジメントツールウィンドウの右下隅にあるステータスバーに、CMS セッションの情報が表示されます。**ツール** > **別の名前でログイン** コマンドを選択して、別のユーザ名でログインします。

関連情報

[認証とセキュリティの概要 \[11 ページ\]](#)

3.2 ログインパスワードを変更する

ログインして CMS に接続した後、トランスレーションマネジメントツールの中で CMS ログインパスワードを変更できます。

1. **ツール** > **パスワードの変更** の順に選択します。

[パスワードの変更]ダイアログボックスが開きます。

2. [古いパスワード]ボックスに、古いパスワードを入力します。
3. [新しいパスワード]と[パスワードの確認]の両方のボックスに新しいパスワードを入力します。入力したパスワードは、完全に一致する必要があります。
4. [OK]をクリックします。
新しいパスワードが CMS に保存されます。

3.3 トランスレーションマネジメントツールウィンドウの概要

ツールの初回起動時には、最も一般的に使用される、[翻訳エディタ]、[テキストエディタ]、[言語管理] の 3 つのビューがウィンドウに表示されます。

必要な場合は、ウィンドウをカスタマイズして別のビュー(セルプロパティ、フィルタ、およびヘルプ)を表示することができます。

メニューバーには次のコマンドメニューが表示されます。

- **ファイル**: ファイルを開く、保存、インポート、エクスポートの各コマンド。
- **編集**: よく使用されるテキスト編集コマンド。
- **ツール**: ログイン情報を再入力したり、パスワードを変更するコマンド。
- **ウィンドウ**: ビューを表示、閉じたり、アプリケーションの設定を選択するコマンド。
- **ヘルプ**: トランスレーションマネジメントツールのヘルプを個別のウィンドウに表示したり、[ヘルプ] ビューを開くコマンド。

メニューバーの下ツールバーには以下のアイコンが含まれます。

- メニューコマンドを 1 回のクリックで実行できるコマンドのショートカットアイコン
- よく使用されるテキスト編集コマンドアイコン
- トランスレーションマネジメントツールビューの個別表示用アイコン

マウスポインタをアイコンの上に移動すると、各アイコンの機能がヒントとして表示されます。

トランスレーションマネジメントウィンドウの下部にあるステータスインジケータは、Central Management Server への接続ステータスを示します。

関連情報

[トランスレーションマネジメントツールウィンドウのカスタマイズ \[18 ページ\]](#)

3.3.1 翻訳エディタビューについて

[翻訳エディタ] ビューでは、ドキュメント内の文字列を翻訳できます。[翻訳エディタ] ビューで実行できるタスクについては、以下の関連トピックを参照してください。

ドキュメントを開くと、翻訳エディタビューで新しいタブが開きます。表には、左の列にドキュメントオブジェクト名、次の列に元のコンテンツ、その次の列に翻訳対象言語が表示されます。

この表は、次の 2 種類の方法で表示できます。

- カテゴリビューはデフォルトで表示され、階層構造に整理されたドキュメントを示します。
- リストビューは、階層情報を含まない全レベル表示でドキュメントを示します。オブジェクト名およびそのアイコンは、左列に表示されます。リストビューでは、文字列の並べ替え、置換、フィルタを実行できます。

トランスレーションマネジメントツールでは、翻訳可能コンテンツである文字列（名前、説明、プロンプトなど）または書式（日付または数値）がオブジェクトごとに表示されます。

セルのコンテンツを編集して翻訳を入力することができます。

i 注記

[ソース] 言語列のセルは編集できません。

XLIFF 翻訳ステータスに応じて、セルコンテンツの外観が変わります。

プロパティは、各セルのコンテンツに関連付けられています。セルのプロパティを表示するには、セルプロパティビューを使用します。

関連情報

[翻訳エディタで文字列を翻訳する \[29 ページ\]](#)

[翻訳エディタで文字列を並べ替える \[30 ページ\]](#)

[翻訳エディタで文字列を検索および置換する \[31 ページ\]](#)

[翻訳エディタでデフォルトの書式を設定する \[32 ページ\]](#)

[リストビューをステータスでフィルタする \[38 ページ\]](#)

[翻訳ステータス \[37 ページ\]](#)

3.3.2 言語管理ビューについて

言語管理ビューでは、ドキュメントに言語を追加し、管理できます。言語管理ビューで実行できるタスクについては、関連トピックを参照してください。

言語管理ビューの左側にある [\[使用可能な言語\]](#) の一覧には、ツールでサポートされている言語がすべて表示され、ドキュメントに追加する言語を選択できます。アプリケーションの基本設定で、よく使用する言語が一覧の上部に表示されるように定義できます。

右の [\[選択した言語\]](#) の表には、ドキュメント用に選択した言語の一覧が表示されます。デフォルトでは、選択した各言語の列は、翻訳エディタビューに表示されます。

ドキュメントに追加した各言語には、次の情報が適用されます。

列	説明
表示	[表示]チェックボックスでは、翻訳エディタビューの列に言語を表示するかどうかを選択できます。
翻訳済み	[翻訳済み]列には、翻訳済みのコンテンツ(ステータスが NEEDS_REVIEW_TRANSLATION、NEEDS_REVIEW_L10N、NEEDS_REVIEW_ADAPTATION、TRANSLATED、SIGNED_OFF、または FINAL のセル)のパーセンテージが表示されます。
表示	[表示] チェックボックスでは、レポートを選択した言語で表示できることを定義できます。言語を表示可能にするためには、元のドキュメントにエクスポートする必要があります。
フォールバック	[フォールバック] オプションでは、優先表示言語での翻訳を使用できない場合に表示する言語を定義できます。フォールバック言語として設定するには、その言語を [表示] に設定しておく必要があります。1つのドキュメントで定義できる代替言語は、1つのみです。

関連情報

[ドキュメントの言語を追加および削除する \[28 ページ\]](#)

[フォールバック言語を設定する \[28 ページ\]](#)

[使用頻度の高い言語を設定する \[20 ページ\]](#)

[トランスレーションマネジメントツールで使用される用語 \[9 ページ\]](#)

3.3.3 テキストエディタビューについて

[テキストエディタ] ビューでは、長すぎて [翻訳エディタ] のセルに表示できない文字列を翻訳できます。デフォルトでは、テキストエディタビューは、トランスレーションマネジメントツール ウィンドウの右側に表示されます。

[翻訳エディタ] ビューでセルを選択すると、次のようになります。

- テキストエディタビューの[翻訳]ボックスにセルのコンテンツが表示されます。テキストエディタでは、このセルのコンテンツを編集できます。

i 注記

ただし、元のコンテンツを変更することはできません。

- テキストエディタビューの[ソース]ボックスに、関連付けられているソース言語のコンテンツが表示されます。このコンテンツは、編集できません。
- Web Intelligence ドキュメントの場合は、翻訳者用のコメントはメモボックスに表示されます。このコメントは編集できません。

関連情報

[テキストエディタで文字列を翻訳する \[30 ページ\]](#)

3.3.4 フィルタビューについて

[[フィルタ](#)] ビューでは、[[翻訳エディタ](#)] リストビューの言語に対して表示される行にフィルタを適用できます。

ドキュメントの各言語に対して、1つのステータス、すべてのステータス、または組み合わせのステータスの文字列を表示するように選択できます。ただし、一度に指定できる言語は1つです。

[[フィルタ](#)] ビューを有効にすると、[[翻訳エディタ](#)] がリストビューで表示されます。

関連情報

[リストビューをステータスでフィルタする \[38 ページ\]](#)

[翻訳ステータス \[37 ページ\]](#)

3.3.5 セルプロパティビューについて

[[セルのプロパティ](#)] ビューには [[翻訳エディタ](#)] ビューのセルのプロパティが表示されます。このビューでは、セルのステータスを変更できます。

[[セルのプロパティ](#)] ビューには、[[翻訳エディタ](#)] ビューの現在のセルの以下のプロパティが表示されます。



プロパティ	説明
名前(説明、書式)	セルのコンテンツ: テキスト文字列または書式定義。
ステータス	選択したセルの XILFF 翻訳ステータス。ドロップダウンリストでステータスを変更できます。
最終更新	セルのコンテンツまたはステータスが最後に変更された日時。

関連情報

[セルのプロパティを変更する \[39 ページ\]](#)

[翻訳ステータス \[37 ページ\]](#)

3.3.6 ヘルプビューについて

ヘルプビューを開いて特定項目のヘルプを表示するには、F1を押すか、 **ヘルプ** を選択します。

ヘルプビューでは、現在のビューまたはダイアログボックスに最も関連性の高い項目へのリンクの一覧が表示されます。**動的ヘルプ** セクションでは、他の関連トピックへのリンクおよび検索結果の一覧が表示されます。

ビューの下にあるアイコンを使用すると、すべての項目の一覧の表示、ヘルプコンテンツの検索、後で参照するための項目へのブックマークの指定を実行できます。

3.4 トランスレーションマネジメントツールウィンドウのカスタマイズ

トランスレーションマネジメントツールウィンドウでのビューの表示方法は、カスタマイズできます。カスタマイズは、ログイン情報に関係なく、トランスレーションマネジメントツールにログインするたびに適用されます。

対処方法	説明
ビューを開く	ビューを開くには、[ウィンドウ] メニューからビューを選択するか、トランスレーションマネジメントツールのツールバーでアイコンをクリックします。
ビューを閉じる	ビューを閉じるには、ビュータイトルバーで [閉じる] ボタンをクリックするか、トランスレーションマネジメントツールのツールバーでビューアイコンをクリックします。
ビューの移動	トランスレーションマネジメントウィンドウ内でビューを移動するには、ビューのタイトルバーをクリックし、ビューを新しい場所にドラッグします。
ビューの切り出し	ビューを新しいウィンドウで開くには、トランスレーションマネジメントツールウィンドウの外にビューをドラッグするか、ビューのタイトルバーを右クリックして [切り出し] を選択します。
ビューの再貼り付け	切り出したビューをトランスレーションマネジメントツールウィンドウに戻すには、ビューのタイトルバーを右クリックし、[切り出し] の選択を解除します。
ビューのサイズ変更	ビューを大きくまたは小さくするには、ビューの外側をドラッグします。ビューを最小化および最大化するには、ビューの右上隅のアイコンを使用します。

関連情報

[トランスレーションマネジメントツールウィンドウの概要 \[14 ページ\]](#)

3.5 基本設定の設定

次の設定を選択できます。

- ツールを使用する際の製品インタフェース言語。
- ドキュメントおよび XLIFF ファイルのデフォルトフォルダ。
- 翻訳対象の新しいリソースに自動的に追加する言語。このロケールは、トランスレーションマネジメントツールで、翻訳対象の文字列をリソースから取得するときに追加されます。
- ドキュメントで使用頻度の高い言語。これらの言語は、言語管理ビューにある利用可能言語の一覧の上部に表示されます。
- 自動入力オプションでは、新しいロケールを別のロケールのコンテンツをコピーして追加する必要があるかどうかを定義します。
- ツールで書式例を表示するときに使用する日時値と数値。

選択した設定は、ログイン情報に関係なく、ツールを起動するたびに適用されます。

関連情報

[デフォルトのファイルの場所を設定する \[20 ページ\]](#)

[使用頻度の高い言語を設定する \[20 ページ\]](#)

[製品言語を設定する \[19 ページ\]](#)

[トランスレーションマネジメントツールで使用される用語 \[9 ページ\]](#)

3.5.1 製品言語を設定する

トランスレーションマネジメントツールのインタフェース言語を変更するには、この手順を使用します。

1. **ウィンドウ** > **設定** > **製品言語の設定** を選択します。
2. 利用可能な**[製品の言語]**の一覧から言語を選択します。

i 注記

利用可能な製品言語の一覧に特定の言語を表示するには、トランスレーションマネジメントツールのインストール時に対象の言語パックを選択する必要があります。

3. **[適用]**をクリックして変更を適用するか、**[OK]**をクリックして変更を適用し、**[設定]**ダイアログボックスを閉じます。

インタフェースが新しい言語で表示されるように、トランスレーションマネジメントツールを再起動します。

関連情報

[トランスレーションマネジメントツールで使用される用語 \[9 ページ\]](#)

3.5.2 デフォルトのファイルの場所を設定する

次の 2 種類のファイルについて、デフォルトのファイルフォルダを定義できます。

- リソースファイル[リソースファイル]
- XLIFF ファイル

トランスレーションマネジメントツールウィザードでは、ファイルの保存時にこれらのデフォルトフォルダを使用します。

1. **ウィンドウ** > **設定** > **デフォルトフォルダの設定** を選択します。
2. その他のドキュメントにデフォルトのフォルダを設定するには、**[デフォルトの個人用ドキュメントフォルダ]**ボックスにフォルダ名を入力するか、フォルダを参照して選択します。
3. XLIFF ファイルにデフォルトのフォルダを設定するには、**[デフォルトの XLIFF フォルダ]**ボックスにフォルダ名を入力するか、フォルダを参照して選択します。
4. **[適用]**をクリックして変更を適用するか、**[OK]**をクリックして変更を適用し、**[設定]**ダイアログボックスを閉じます。

3.5.3 自動的に追加されるようにロケールを設定する

翻訳対象ロケールの一覧に言語を自動的に追加するには、この手順を使用します。

1. **ウィンドウ** > **設定** > **言語管理オプションの設定** を選択します。
2. **[自動的にロケールを追加]**チェックボックスをオンにします。
3. 使用可能なロケールの一覧で、追加するロケールを選択します。
リソースを開くときに、選択したロケールが自動的に追加されます。
4. **[適用]**をクリックして変更を適用するか、**[OK]**をクリックして変更を適用し、**[設定]**ダイアログを閉じます。

3.5.4 使用頻度の高い言語を設定する

1. **ウィンドウ** > **設定** > **言語管理オプションの設定** を選択します。
2. **[利用可能]**の一覧から言語を選択し、右矢印をクリックします。
言語を**[使用頻度の高い言語]**の一覧に移動します。**[使用頻度の高い言語]**の一覧にある言語は、言語管理ビューにある利用可能言語の一覧の上部に表示されます。
3. 使用頻度の高い言語を追加し終えたら、**[適用]**をクリックして変更を適用するか、**[OK]**をクリックして変更を適用し、**[設定]**ダイアログボックスを閉じます。

関連情報

[言語管理ビューについて \[15 ページ\]](#)

3.5.5 自動入力オプションを設定する

1. **ウィンドウ > 設定 > 言語管理オプションの設定** を選択します。
2. サポート対象ロケールのリストに新しいロケールを追加した場合に、その新しいロケールが自動入力されるようにするには、**[自動入力されたソース言語のテキストを新しい列に入力]** を選択します。
3. ドロップダウンメニューから追加するロケールを選択します。
4. 新しいロケールを初期化しない場合は、**[空の列の追加]** を選択します。
5. 使用頻度の高い言語を追加し終わったら、**[適用]** をクリックして変更を適用するか、**[OK]** をクリックして変更を適用し、**[設定]** ダイアログを閉じます。

3.5.6 書式のサンプルデータを設定する

1. **ウィンドウ > 基本設定 > 書式用のサンプルデータの設定** を選択します。
2. 日時書式を表示するときに使用する、特定の日付を定義するには、次の操作を行います。
 - a. **[カスタム日時]** を選択します。
 - b. **[日付]** ボックスで、カレンダーから日付を選択します。
 - c. **[時刻]** ボックスで時間、分、または秒を選択してから、新しい数字を選択するか入力して、数字を変更します。
3. 数値書式を表示するときに使用する特定の数字を定義するには、サンプル数字ボックスに新しい数字を入力します。
4. **[適用]** をクリックして変更を適用するか、**[OK]** をクリックして変更を適用し、**[設定]** ダイアログボックスを閉じます。

4 翻訳ワークフロー

4.1 翻訳ワークフローの概要

次の方法で、ドキュメントを翻訳できます。

- トランスレーションマネジメントツールを使用して内部（社内）で翻訳し、翻訳対象のコンテンツをローカルリソースまたはリポジトリ内に保存されているリソースからインポートします。
- 翻訳者は翻訳言語を追加し、文字列を翻訳し、翻訳を元のリソースファイルにエクスポートすることができます。翻訳は、元のファイルに統合されます。
- 翻訳者は翻訳メタデータをローカルに保存し、.tmgr ファイルの中でオフライン作業を実行することができます。
- 翻訳対象の文字列を抽出した後、それらの文字列を XLIFF 形式のファイルとしてエクスポートし、XLIFF 準拠の任意の翻訳ツールで翻訳するためにそのファイルを配布することができます（第 8 章を参照）。

i 注記

リポジトリの中でドキュメントを翻訳することはできません。翻訳可能なコンテンツをインポートして作業する必要があります。

関連情報

[CMS リポジトリから取得したリソースの翻訳の概要 \[24 ページ\]](#)

[同時翻訳の概要 \[24 ページ\]](#)

4.2 翻訳済みのロケールの管理方法

トランスレーションマネジメントツールは、ロケールのみをエクスポートして返します。

- これらのロケールは、翻訳者がトランスレーションマネジメントツールを使用して追加したものです（ロケールはリソースに追加されます）。
- これらのロケールは、翻訳者がトランスレーションマネジメントツールを使用して変更したものです（同期の問題がない場合は、ロケールは更新されます）。

トランスレーションマネジメントツールによって翻訳可能なプロパティをソースから取得する際、ソースはロックされません。翻訳中にソースが変更された場合は、このツールで新しい翻訳をソースにエクスポートするときにチェックが実行され、ソースと翻訳済みドキュメントの間で同期/整合性が検証されます。

不一致が見つかった場合は、ツールは 3 つのオプションを提案します。

- ソースを使用して、トランスレーションマネジメントツール内のコンテンツを更新する（推奨）。
- エクスポート全体をキャンセルする。この場合、何も実行されません。トランスレーションマネジメントツール で開いたメタデータは何も変更されず、ソースも変更されません。
- 翻訳済みの文字列を強制的にエクスポートする。

表 2:さまざまなパブリケーションオプション

ステータス	更新	キャンセル	ローカルパブリケーションの強制
翻訳単位はソースから削除されました。	削除された翻訳単位は、トランスレーションマネジメントツール内の翻訳メタデータからも削除されます。	変更なし	削除された翻訳単位は、トランスレーションマネジメントツール内の翻訳メタデータから削除されます。
新しい翻訳単位がソースに追加されました。それらを翻訳する必要があります。	新しい翻訳単位がトランスレーションマネジメントツール内の翻訳メタデータに追加されます。それらのステータスは [新規] です。	変動なし	新しい翻訳可能プロパティが [新規] ステータスで追加されますが、どの翻訳も使用できません。
ソース内の翻訳単位が削除されました。（進行中の翻訳は、古いものになっている可能性があります）。	変更された翻訳単位は、NEEDS_REVIEW_TRANSLATION または NEEDS_REVIEW_LOCALISATION のステータスでインポートされます。	変動なし	トランスレーションマネジメントツール内のテキストソースは更新されますが、翻訳はトランスレーションマネジメントツールから取得した XLIFF ステータスで公開されます。
ソース内の翻訳単位のうち1つまたは複数の翻訳が変更されました。	変更済みの翻訳は、NEEDS_REVIEW_TRANSLATION または NEEDS_REVIEW_LOCALISATION のステータスでトランスレーションマネジメントツールにインポートされます。	変動なし	変更済みの翻訳は、トランスレーションマネジメントツールから取得した XLIFF ステータスで、リソース内で公開されます。

4.3 セキュリティ権限と翻訳権限の概要

CMS リポジトリの中で公開されているオブジェクトを翻訳するには、ユーザがその翻訳をするための権限が付与されていることが前提になります。このような権限は、CMC の権限を経由して付与されるもので、リソースレベルまたはトランスレーションマネジメントツールレベルで定義できます。

トランスレーションマネジメントツールを使用するには、[トランスレーションマネージャにログインして CMC でオブジェクトとして表示する](#)権限を付与されている必要があります。特定のリソースを翻訳するには、次の権限を付与されている必要があります。

- オブジェクトを翻訳する
- オブジェクトを編集する

ユーザがトランスレーションマネジメントツールにログインする際、ユーザに割り当てられている権限によって、オブジェクトの編集または翻訳を実行できるかどうか定義されます。

表 3:編集権限の管理方法

レベル	説明
CMS 内でのシステムレベル	編集権限が付与されていない場合は、CMS は、トランスレーションマネジメントツールのユーザが、どの InfoObject 多言語情報も更新できないようにします。
オブジェクトを開く前のトランスレーションマネジメントツールレベル	トランスレーションマネジメントツールは、現在のユーザに関するこの権限の有効な値をチェックします。拒否された場合は、警告メッセージが表示されます。オブジェクトは開かれます。翻訳者はトランスレーションマネジメントツールの中でソースを開き、編集することはできますが、後で保存することはできません。
CMS に格納されているソースに新しい翻訳を保存する前のトランスレーションマネジメントツールレベル	トランスレーションマネジメントツールは、現在のユーザの編集権限をチェックします。権限が拒否された場合は、エラーメッセージが表示され、翻訳は保存されません。XLIFF インポート、XLIFF 一括インポート、または翻訳メタデータをソースにインポートするときに、この状況が発生します。

4.4 同時翻訳の概要

複数のドキュメントを同時に翻訳すると、翻訳プロセスの時間を短縮できます。複数の翻訳者が複数のロケールで同時に作業できます。ただし、特定のロケールで作業できるのは 1 人の翻訳者だけとすることをお勧めします。2 人の翻訳者が同じロケールを提出しようすると、後の翻訳者の変更で先の翻訳者の変更が削除される可能性があります。ドキュメントを翻訳する方法は 2 つあります。

- トランスレーションマネジメントツールを使用して内部（社内）で翻訳し、ローカルに格納されているファイルをインポートして、翻訳するロケールを追加します。コンテンツを翻訳し、ファイルをエクスポートしてソースファイルに戻します。翻訳は、元のファイルに統合されます。
- .tmgr ファイルを XLIFF 形式のファイルとしてエクスポートし、外部で翻訳します。XLIFF 準拠の任意の翻訳ツールで翻訳するためにそのファイルが配布されます。

翻訳を元のソースにインポートしなおすときは、トランスレーションマネジメントツールはロケールのみをエクスポートして返します。

- これらのロケールは、翻訳者がトランスレーションマネジメントツールを使用して追加したものです（ロケールはリソースに追加されます）。
- これらのロケールは、翻訳者がトランスレーションマネジメントツールを使用して変更したものです（同期の問題がない場合は、ロケールは更新されます）。

したがって、翻訳対象の文字列を他の翻訳者に送信し、それらの翻訳者が並行して訳すことができます。翻訳者が自らの翻訳を元のリソースにエクスポートして返すときは、それらのエクスポート結果が他の翻訳者による翻訳を上書きすることはありません。これらの翻訳は異なるロケール上で作業されたものとみなされるからです。

4.5 CMS リポジトリから取得したリソースの翻訳の概要

CMS の中でメタデータ（ドキュメントのコンテンツ）とドキュメント名を翻訳できます。リポジトリに格納されているリソースを翻訳するには、次のステップに従います。

- リポジトリにアクセスする権限が必要です。
- ドキュメントを翻訳する権限が必要です。この権限がない場合は、翻訳をソースドキュメントにインポートしなおすことができません。
- リソースをトランスレーションマネジメントツールにインポートし、.tmgr ファイルをローカルに保存する必要があります。
- 翻訳をエクスポートし、リポジトリ内のソースドキュメントに戻します。

コンテンツの翻訳に加えて、リポジトリの中でファイル名を翻訳することもできます。リポジトリの中でファイルを参照し、ファイルをクリックして、**[追加]** を選択します。

4.5.1 翻訳対象のコンテンツを CMS リポジトリ内のリソースからインポートする方法

リソースからすべての翻訳可能コンテンツをインポートして、ローカルで開くことができます。リソースをインポートし、翻訳した後でエクスポートする、またはリソースをインポートし、保存してローカルで作業することができます。トランスレーションマネジメントツールを使用してリポジトリ内のリソースを開く場合は、ユーザがドキュメントの編集または翻訳を実行できるかどうかをチェックするために、ユーザ権限が検証されます。

選択したオブジェクトから翻訳メタデータが取得されます。オブジェクトは実際にファイルシステム上に保存されるわけではなく、リポジトリから実際に抽出されるわけでもありません。この結果、翻訳にドキュメントのコンテンツの一部のみが必要とされる場合に、ドキュメント全体をインポートすることを防止できます。この翻訳メタデータがトランスレーションマネジメントツールで使えるようになった後、翻訳者はメタデータの作業を実行できます。

必要な情報のみが取得されます。ユーザは、それらの情報に対して作業することができ、または翻訳メタデータを一時的にローカルに保存し、オフライン作業を実行することができます。翻訳が完了した段階で、ユーザに適切なアプリケーション権限があることをチェックした後、トランスレーションマネジメントツールを使用して、翻訳済みのコンテンツをリポジトリ内のリソースにエクスポートします。

1. SAP BusinessObjects の認証情報を使用してトランスレーションマネジメントツールを実行します。
2. **[ファイル]** メニューで、**ファイル** > **翻訳する文字列のインポート** > **リポジトリ** を選択します。
3. ダイアログボックスで、翻訳するリソースを格納しているフォルダへ移動し、そのフォルダを選択します。
右側の枠に、使用できるドキュメントが表示されます。
4. この枠で、リソースを選択して **[追加]** をクリックします。
リソースファイルの名前が **[追加]** ボタンの下のインポート枠に表示されます。同じ方法でリソースを追加することもできます。
5. リソースをインポート対象リソースのリストから削除するには、リソース名をクリックして **[削除]** をクリックします。
6. インポートされるファイルを、同じ名前の既存のローカルリソースと置き換える場合は、**[既存のドキュメントの上書き]** チェックボックスをオンにします。
7. **[インポート]** をクリックします。
リソースのインポートに失敗した場合は、**[インポート]** 枠の **[インポートステータス]** 列に警告が表示されます。正常にインポートされたドキュメントは、**[基本設定]** オプションで定義されているローカルのデフォルトフォルダに保存されます。すべてのドキュメントのインポートが正常に終了したら、ウィザードが閉じます。
8. トランスレーションマネジメントツールはユーザの権限をチェックし、**オブジェクトを編集する権限**または**オブジェクトを翻訳する権限**が付与されていない場合は警告を表示します。それ以外の場合は、トランスレーションマネジメントツールは翻訳メタデータをソースから取得します（翻訳メタデータをインポートします）。トランスレーションマネジメントツール内で翻訳メタデータが表示されます。
9. ドキュメントにローカルを追加し、翻訳をローカルに保存します。

翻訳済みのファイルはローカルに保存され、編集の目的でもう一度開くことができます。ファイルの翻訳が完了したら、それをエクスポートして元のリポジトリに戻すことができます。

4.5.2 CMS リポジトリ内でのソースリソースへの翻訳のエクスポートの概要

必要なロケールでリソースコンテンツを翻訳した後、ユーザが翻訳を使用できるように、それらの翻訳をリポジトリ内にあるリソースにエクスポートして返す必要があります。翻訳では、NEEDS_REVIEW_TRANSLATION、NEEDS_REVIEW_L10N、NEEDS_REVIEW_ADAPTATION、TRANSLATED、SIGNED_OFF、FINAL いずれかのステータスに設定する必要があり、ロケールも [表示] に設定する必要があります。

翻訳後のコンテンツをソースリソースにエクスポートするには、以下の条件が必要です。

- リソースを含む CMS リポジトリに接続している。
- 管理者から付与された必要なセキュリティ権限を持っている。

翻訳後のメタデータは表示というステータスを割り当てられ、リポジトリにエクスポートされて、ドキュメント内で翻訳が使用可能となります。

4.6 ローカルリソースの翻訳の概要

ローカルに格納されているすべてのユーザ用のリソースに関して、ローカルリソースからメタデータを抽出し、そのメタデータを翻訳することができます。トランスレーションマネジメントツールを使用して、ファイルシステム上に格納されているリソースを翻訳することもできますが、このツールが翻訳できるのは保護されていないリソースのみです。

翻訳できるリソースは、次のとおりです。

- Web Intelligence レポート
- ユニバースデザインツールで作成したユニバース
- インフォメーションデザインツールで作成したデータファンデーションレイヤとビジネスレイヤ

CMS リポジトリ内に格納されているリソースの場合、ローカルリソースを翻訳するために、翻訳しようとするコンテンツをトランスレーションマネジメントツールで抽出し、ファイルをローカルに保存し、ローカルリソースを翻訳する場合と同じ方法でそのコンテンツを翻訳します。

4.6.1 翻訳対象のコンテンツをローカルリソースからインポートする

翻訳対象のコンテンツをインポートする

1. **ファイル** > **翻訳する文字列のインポート** > **ローカルリソースから** を選択します。
2. ダイアログボックスで、インポートするドキュメントを格納しているフォルダへ移動し、そのフォルダを選択します。
3. 翻訳するリソースを選択し、[OK] をクリックします。

文字列をインポートすると、ロケールを追加し、それらロケール内の文字列を翻訳することができます。または外部で翻訳するためにそれらの文字列を XLIFF にエクスポートすることができます。

4.6.2 ローカルに保存したリソースに翻訳をエクスポートする

必要なロケールでリソースコンテンツを翻訳した後、ユーザが翻訳を使用できるように、それらの翻訳をリソースにエクスポートして返す必要があります。翻訳では、NEEDS_REVIEW_TRANSLATION、NEEDS_REVIEW_L10N、NEEDS_REVIEW_ADAPTATION、TRANSLATED、SIGNED_OFF、FINAL いずれかのステータスに設定する必要があります。ロケールを [表示] に設定する必要があります。

► **ファイル** ► **翻訳した文字列のエクスポート** ► を選択します。

翻訳済みのコンテンツはローカルリソースにエクスポートされて返されます。

4.7 TMGR 形式の概要

ローカルリソースまたは CMS リポジトリ内に保存されたリソースから取得した文字列を翻訳する場合は、TMGR と呼ばれるトランスレーションマネジメントツール独自のファイル形式で作業をローカルに保存できます。ファイルは <ファイル名>.tmgr という名前で保存されます。このファイルには、翻訳対象であるすべての文字列、他のロケールにおける現在の翻訳、およびそれらのステータスが格納されています。後でこのファイルを開いて、翻訳を最終的にエクスポートしてリソースに返す前に、作業を続行することもできます。

オフライン作業をする場合は、現在の翻訳を保存しておく役に立つことがあります。CMS リポジトリのリソースに接続しなくても、そのリソースに対応する翻訳を引き続き作業できるからです。► **ファイル** ► **保存** ► を選択し、翻訳をローカルに保存するだけです。翻訳が完了した後、トランスレーションマネジメントツールを終了できます。後でこのツールを起動し、.tmgr ファイルを開いてコンテンツの翻訳を続行することもできます。

5 ドキュメントの翻訳

5.1 ドキュメントの言語を追加および削除する

言語を追加する前に、[自動入力] オプションまたは自動入力ソース言語を変更するかどうかを決めます。

1. リソースから翻訳するコンテンツをインポートする。
2. 言語管理ビューが開いていなければ、これを開きます。▶ [ウィンドウ](#) ▶ [言語管理](#) ▶ ビューを選択します。
3. 言語を追加するには、[利用可能言語]の一覧から言語を選択し、右矢印をクリックします。
言語が[選択した言語]の一覧に追加されます。その言語の列が、[翻訳エディタ](#)ビューに新たに追加されます。自動入力オプションをオンにすると、トランスレーションマネジメントツールでは、その列の自動入力ソース言語のコンテンツが入力されます。
4. [翻訳エディタ](#)ビューで新しい言語の列を非表示にするには、[表示]チェックボックスをオフにします。

注記

非表示にしても、その言語はドキュメントに残ります。

5. ドキュメントから言語を削除するには、[選択した言語]の一覧から言語を選択し、左矢印をクリックします。
トランスレーションマネジメントツールから、削除アクションの確認を求められます。

警告

言語を削除すると、その言語に翻訳されたコンテンツがすべて失われます。

新たに追加した言語の翻訳を始めることができます。

関連情報

[言語管理ビューについて \[15 ページ\]](#)

5.2 フォールバック言語を設定する

フォールバック言語の説明については、関連トピックの用語に関するトピックを参照してください。

1. 言語管理ビューが開いていなければ、これを開きます。▶ [ウィンドウ](#) ▶ [言語管理](#) ▶ ビューを選択します。
2. 言語管理ビューで、使用する言語に [表示] を選択します。
3. この言語で [フォールバック] オプションをクリックします。

4.  **ファイル** > **保存**  を選択します。

ドキュメントをリポジトリにエクスポートして、この言語がクエリおよびレポーティングアプリケーションでフォールバック言語として使用できるようにします。

関連情報

[トランスレーションマネジメントツールで使用される用語 \[9 ページ\]](#)

5.3 翻訳エディタで文字列を翻訳する

翻訳エディタビューでは、短い文字列を翻訳できます。長い文字列を翻訳するには、[\[テキストエディタ\]](#)ビューを使用してください。

翻訳の前に、次の操作を行う必要があります。

- リソースから翻訳するコンテンツをインポートする。
 - 少なくとも 1 つの翻訳する言語を追加する。
1. [\[翻訳エディタ\]](#) の翻訳する言語の列で、翻訳するコンテンツが含まれているセルをクリックします。
自動入力オプションによって言語が追加された場合、このセルには自動入力ソース言語のコンテンツが含まれています。それ以外の場合は、列は空白になります。
 2. 前の文字列を上書きして翻訳を入力します。
セルをクリックすると、テキストエディタビューにコンテンツが表示されます。翻訳を入力すると、セルのステータスは自動的に **TRANSLATED** に設定されます。

i 注記

日付および数値書式を含むセルには、入力できません。書式を設定するには、セルを右クリックし、デフォルトの書式を選択するか、書式エディタを使用してカスタム書式を作成します。

3. 翻訳する次のセルに移動するには、そのセルをクリックします。

➡ ヒント

翻訳時には、[\[編集\]](#)メニューの標準的な編集コマンドに加えて、**[Esc]** キーを押して現在の翻訳をキャンセルしたり、**[Ctrl] + [Z]** を押して最後の翻訳を元に戻したりできます。

4.  **ファイル** > **保存**  を選択します。

関連情報

[翻訳エディタでデフォルトの書式を設定する \[32 ページ\]](#)

[翻訳エディタビューについて \[14 ページ\]](#)

[テキストエディタで文字列を翻訳する \[30 ページ\]](#)

[翻訳ステータス \[37 ページ\]](#)

5.4 テキストエディタで文字列を翻訳する

長すぎて翻訳エディタのセル内で翻訳できない文字列を翻訳するには、[テキストエディタ] ビューを使用します。

1. リソースから翻訳するコンテンツをインポートする。
2. テキストエディタビューが開いていなければ、開きます。▶ [ウィンドウ](#) ▶ [テキストエディタビュー](#) ▶ を選択します。
3. 翻訳エディタビューで、翻訳するコンテンツが含まれるセルをクリックします。

テキストエディタの[ソース]ボックスにソースが表示されます。このボックスのコンテンツは編集できません。

すでに翻訳されたコンテンツが[翻訳]ボックスに表示されます。

4. [翻訳]ボックスのコンテンツを編集します。

i 注記

元のコンテンツは編集できません。

5. 翻訳エディタビューで翻訳した内容を適用するには、[適用]をクリックします。
6. 変更を取り消すには、[リセット]をクリックします。
7. ▶ [ファイル](#) ▶ [保存](#) ▶ を選択します。

関連情報

[テキストエディタビューについて \[16 ページ\]](#)

5.5 翻訳エディタで文字列を並べ替える

1. リソースから翻訳するコンテンツをインポートする。
2. 翻訳エディタビューの左側にあるタブをクリックして、リストビューを開きます。
3. 列内の文字列を基準にして一覧を並べ替えるには、その列のヘッダをクリックします。
並び順を昇順から降順に変えるには、列のヘッダをもう一度クリックします。

5.6 翻訳エディタで文字列を検索および置換する

1. リソースから翻訳するコンテンツをインポートする。
2. 翻訳エディタビューの左側にあるタブをクリックして、[リスト] ビューを開きます。
3. **編集 > 検索/置換** を選択します。
4. [検索と置換] ダイアログボックスの[検索]ボックスに、検索する文字列を入力します。

i 注記

トランスレーションマネジメントツールは、リストビューで選択されているセルから検索します。

5. リストビューの選択されているセクションを検索する
 - a. 検索するセクションの最初の行をクリックします。
 - b. **Shift** を押したまま、セクションの最後の行をクリックします。
セクションが反転表示されます。
 - c. [検索と置換] ダイアログボックスで、連結範囲に対して[選択した行]オプションを選択します。

i 注記

セクションを選択してから**編集 > 検索/置換** を選択すると、[選択した行]オプションが自動的に選択されます。

6. 検索方向を変更するには、[前方]または[後方]オプションを選択します。
7. その他のオプションを選択するには、適切なチェックボックスをオンにします。

オプション	説明
大文字と小文字を区別する	[検索]ボックス内の文字列に、大文字、小文字も含めて一致する文字列のみを検索します。
単語単位	[検索]ボックス内の文字列全体に一致する文字列のみを検索します。
折り返し検索	ドキュメントの最後まで来たら、最初に戻って検索を続けます。
インクリメンタル	[検索]ボックスに文字を入力すると、文字列の検索が始まります。

8. [検索]をクリックします。ただし、[インクリメンタル]オプションを選択した場合を除きます。
トランスレーションマネジメントツールで、検索文字列が検出されたセルが反転表示されます。[置換]ボタンと[置換/検索]ボタンを使用できます。文字列が検出されなかった場合は、これらのボタンを使用できません。
9. トランスレーションマネジメントツールで文字列のインスタンスが検出された場合は、次の操作を行います。
 - 次のインスタンスを検索するには、[検索]をクリックします。
 - 文字列を置換するには、[置換]ボックスに置換文字列を入力し、[置換]をクリックするか、文字列を置換して次のインスタンスを検索する場合は[置換/検索]をクリックします。
10. 検索が終了したら、[閉じる]をクリックします。

6 書式の設定

6.1 翻訳エディタでデフォルトの書式を設定する

数値および日時の書式をデフォルトの書式に設定するには、翻訳エディタビューを使用します。

i 注記

書式エディタを使用して、デフォルトの書式を選択することもできます。カスタム書式を定義するには、書式エディタを使用する必要があります。

1. **[翻訳エディタ]** で、数値または日時のいずれかの書式オブジェクトが含まれるセルを右クリックします。
ショートカットメニューが表示されます。
2. ショートカットメニューから、使用するデフォルトの書式を選択します。
セルに新しい書式が表示されます。

i 注記

アプリケーションでは、現在のシステム日時、および数値 987,654,321 を使用して書式例を表示します。アプリケーションの基本設定では、書式を表示するときに使用する独自の数値と日時値を定義できます。

3. **ファイル > 保存** を選択して、書式を保存します。

関連情報

[書式のサンプルデータを設定する \[21 ページ\]](#)

[書式エディタについて \[32 ページ\]](#)

6.2 書式エディタについて

書式エディタでは、日時の値および数値の表示に使用する書式を定義できます。デフォルト書式を選択するか、カスタム書式を定義することができます。ドキュメント内のメタデータオブジェクトについては、ロケールごとに書式を定義できます。書式は、ローカリゼーションの一部としてドキュメントに保存されます。

アプリケーションでは、現在のシステム日時、および数値 987,654,321 を使用して書式を表示します。アプリケーションの基本設定では、書式を表示するときに使用する独自の数値と日時値を定義できます。

デフォルト書式

デフォルト書式は、UNICODE コンソーシアムが管理する Common Locale Data Repository (CLDR) 推奨に基づく書式で使えます。Microsoft 標準と CLDR 推奨が異なる場合は、Microsoft 標準に従います。日付と時刻の値には 15 種類、数値には 4 種類のデフォルト書式が用意されています。

書式エディタは、データのカテゴリごとに使用できるデフォルト書式の一覧を表示します。

カスタム書式

使用できるデフォルト書式がニーズを満たさない場合は、カスタム書式エディタを使用して書式を作成できます。

カスタム書式は、ドキュメントに使用されている場合でも削除できます。削除した書式を使用するオブジェクトに対して次に書式エディタを起動するときに、カスタム書式は自動的に再作成されます。

カスタム書式は、テキストとトークンで構成されます。トークンとは、数字または日付の書式設定済み部分のことです。たとえば、*Day: 1-31* は日付の日の部分を数字の 1 から 31 で示すトークンです。トークンに関する詳細については、関連するトピックを参照してください。

カスタム書式エディタは、使用できるトークンカテゴリの一覧を表示します。書式は、[書式定義] ボックスにテキストを入力し、[トークン] ボックスからトークンをドラッグして定義します。トークンは、長方形の罫線および灰色の背景で示される書式の定義に表示されます。書式を定義すると、その外観がプレビューに表示されます。

カスタム書式ごとに表示色を定義できます。色が定義されていない場合、表示する色は Web Intelligence などのクライアントアプリケーションによって管理されます。

レポーティング時に値が返されない場合は、[未定義の値の書式] ボックスでテキストおよび表示する色を定義できます。デフォルトでは、値が定義されていない場合にはテキストは表示されません。

数値書式を定義する場合、値が負またはゼロの場合に表示される別の書式を入力できます。書式を入力しない場合、正の値に対して定義されている書式が使用されます。

i 注記

“書式” フィールドは .unx ユニバースで使用できないため、日時や時刻といった数値情報を入力、編集することができません。ただし、.unv ユニバースでは数値情報を入力、編集する “書式” フィールドが使用可能です。

関連情報

[書式エディタを起動する \[34 ページ\]](#)

[カスタム書式エディタを起動する \[34 ページ\]](#)

[カスタム書式を削除する \[35 ページ\]](#)

[日付および時刻の書式トークン \[51 ページ\]](#)

[数値書式トークン \[49 ページ\]](#)

[書式のサンプルデータを設定する \[21 ページ\]](#)

6.3 書式エディタを起動する

1. [\[翻訳エディタ\]](#) で、数値または日時のいずれかの書式オブジェクトが含まれるセルを右クリックします。
ショートカットメニューが表示されます。
2. ショートカットメニューから、[\[他の書式\(書式エディタ\)\]](#)を選択します。

関連情報

[カスタム書式を作成する \[34 ページ\]](#)

[書式エディタについて \[32 ページ\]](#)

6.4 カスタム書式エディタを起動する

カスタム書式をゼロから作成することも、既存のデフォルトまたはカスタム書式を新しい書式の基礎として使用することもできます。

1. [\[書式エディタ\]](#) がまだ開かれていない場合は、書式エディタを起動します。
有効な書式カテゴリが[\[書式カテゴリ\]](#)に一覧表示されます。
2. オブジェクトに有効な書式カテゴリが複数存在する場合は、[\[書式カテゴリ\]](#)でカテゴリを選択します。
デフォルトの書式と以前に定義したカスタム書式が[\[使用可能な書式\]](#)に一覧表示されます。
3. ゼロから書式を作成するには、[\[カスタム書式\]](#)をクリックして[\[カスタム書式エディタ\]](#)を開きます。
4. 新しいカスタム書式の基礎として書式を使用するには、まず、[\[使用可能な書式\]](#)で書式を選択し、[\[カスタム書式\]](#)をクリックして[\[カスタム書式エディタ\]](#)を開きます。

関連情報

[カスタム書式を作成する \[34 ページ\]](#)

6.5 カスタム書式を作成する

1. [\[カスタム書式エディタ\]](#) がまだ開かれていない場合は、カスタム書式エディタを起動します。
2. [\[トークン\]](#)一覧で、トークンカテゴリまたは個々のトークンを選択し、次のいずれかの方法でそのトークンカテゴリまたはトークンを[\[書式定義\]](#)ボックスに追加します。
 - トークンまたはトークンカテゴリをダブルクリックします。

- トークンまたはトークンカテゴリを[書式定義]ボックスにドラッグします。

➡ ヒント

[トークン]一覧内のトークンの上にカーソルを移動すると、各トークンの説明がツールヒントとして表示されます。トークンの詳細については、関連トピックを参照してください。

3. カテゴリ内の異なるトークンを選択するには、[書式定義]ボックスに追加したトークンの矢印をクリックします。
4. 同じ方法で追加のトークンを入力します。定義にテキストを追加するには、[書式定義]ボックスに直接入力します。

➡ ヒント

コピー(`Ctrl` + `C`)、貼り付け(`Ctrl` + `V`)、切り取り(`Ctrl` + `X`)、および `Delete` キーを使用して、[書式定義]ボックスの内容を編集します。

5. 書式定義の色を設定するには、書式定義ボックスの横の一覧から色を選択します。
書式の表示例は[プレビュー]ボックスに表示されます。
6. 数値書式で、値が負またはゼロの場合の表示書式を定義するには、トークンとテキストを[負の数の書式]定義ボックスおよび[0と等しい値の書式]定義ボックスに追加します。

i 注記

これらの書式を定義しない場合、負およびゼロの値の表示には[正数]ボックスで定義された書式が使用されます。

7. 日時および数値オブジェクトのどちらの場合も、データベースが値を返さない場合に表示されるテキストを定義するには、[未定義の値の書式]ボックスにテキストを入力します。
8. 書式定義を保存するには、[OK]をクリックします。
[カスタム書式エディタ]ダイアログボックスが閉じます。

定義したカスタム書式は、[書式エディタ]ダイアログボックスの[使用可能な書式]一覧に表示されます。書式を使用するには、書式を選択して[OK]をクリックします。

関連情報

[カスタム書式エディタを起動する \[34 ページ\]](#)

[日付および時刻の書式トークン \[51 ページ\]](#)

[数値書式トークン \[49 ページ\]](#)

[書式エディタについて \[32 ページ\]](#)

6.6 カスタム書式を削除する

1. [書式エディタ] がまだ開かれていない場合は、書式エディタを起動します。
有効な書式カテゴリが[書式カテゴリ]に一覧表示されます。

-
2. オブジェクトに有効な書式カテゴリが複数存在する場合は、[書式カテゴリ]でカテゴリを選択します。
デフォルトの書式と以前に定義したカスタム書式が[使用可能な書式]に一覧表示されます。
 3. [使用可能な書式]一覧でカスタム書式を選択します。
 4. 書式を削除するには、[削除]をクリックします。
書式が一覧から削除されます。
 5. 削除を確認するには、[OK]をクリックします。

カスタム書式は、ドキュメント内の他の場所で使用されている場合でも削除できます。削除した書式を使用するオブジェクトに対して次に書式エディタを起動するときに、カスタム書式は自動的に再作成されます。

関連情報

[書式エディタを起動する \[34 ページ\]](#)

7 ステータスの管理

7.1 翻訳ステータス

ステータスは、すべての言語に翻訳される各セルのコンテンツに割り当てられます。トランスレーションマネジメントツールは、2つのカテゴリに分類される 10 の標準 XLIFF (XML Localization Interchange File Format) ステータスを使用します。

表 4:

カテゴリ	XLIFF ステータス	説明
翻訳が必要 (このコンテンツは エンドユーザに対 して表示されませ ん)	NEW	コンテンツが新規であることを示します。たとえば、コンテンツが追加された場合、または以前翻訳されたドキュメントが編集された場合です。
	NEEDS_TRANSLATION	コンテンツの翻訳が必要であることを示します。
	NEEDS_ADAPTATION	非テキスト情報のみで、手直しが必要であることを示します。
	NEEDS_L10N	テキスト情報には翻訳が必要であり、非テキスト情報には手直しが必要であることを示します。
翻訳を表示 (このコンテンツは エンドユーザに対 して表示できます)	NEEDS_REVIEW_ADAPTATION	非テキスト情報のみで、レビューが必要であることを示します。
	NEEDS_REVIEW_L10N	非テキストコンテンツの翻訳および手直しで、レビューが必要であることを示します。
	NEEDS_REVIEW_TRANSLATION	翻訳済みのコンテンツで、レビューが必要であることを示します。
	TRANSLATED	コンテンツが翻訳されたことを示します。
	SIGNED_OFF	変更がレビューされ、承認されたことを示します。
	FINAL	終了状態を示します。

i 注記

BI ラウンチパッドでは、特定の翻訳のステータスが "要翻訳" である場合も含め、ユーザは BI ラウンチパッドに翻訳を表示することができます。

i 注記

ローカリゼーション(L10N)とは、テキストの翻訳および日付書式など非テキストコンテンツの手直しのことです。

組織やプロセスに応じて、これらのステータスの一部またはすべてを使用できます。トランスレーションマネジメントツールは、ステータスを自動的に設定し、翻訳プロセスのある段階でエディタでの表示を変更します。

- 言語を追加すると、そのセルは[翻訳が必要]カテゴリ内のステータスになります。コンテンツは、翻訳エディタに青色の斜体で表示されます。
- 以前に翻訳したドキュメントに追加したコンテンツや、以前に翻訳したドキュメント内で編集したコンテンツの XLIFF ステータスは、NEW となります。コンテンツは、青い斜体の太字で表示されます。
- いったんセルのコンテンツを翻訳すると、ステータスは自動的に[表示可能な翻訳]カテゴリ内の TRANSLATED に変わります。コンテンツは、黒い標準フォントで表示されます。
- 言語を[使用可能]に設定し、ドキュメントを Content Management Server にエクスポートすると、[表示可能な翻訳]カテゴリ内のステータスの文字列をクライアントクエリおよびレポーティングツールで表示できます。

リストビューに表示されるセルをステータスでフィルタすると、翻訳ワークフローの管理に役立ちます。

セルのステータスを確認するには、セルプロパティビューを使用します。

XLIFF の詳細については、OASIS Consortium Web サイトで入手できる XLIFF 標準を参照してください。

関連情報

[リストビューをステータスでフィルタする \[38 ページ\]](#)

[セルのステータスを変更する \[40 ページ\]](#)

[セルのプロパティを変更する \[39 ページ\]](#)

[セルプロパティビューについて \[17 ページ\]](#)

OASIS Consortium at <http://www.oasis-open.org/> 

7.2 メタデータ翻訳履歴の概要

このツールでは、メタデータとともにメタデータを最後に編集した日付を保存できます。この機能は、次のものでサポートされています。

- Web Intelligence ドキュメント (.wid)
- ユニバースデザインツールのユニバース (.unv)
- インフォメーションデザインツールのデータファンデーションレイヤおよびビジネスレイヤ (.dfx および .blx)

i 注記

これは、Crystal Reports for Enterprise ドキュメントまたは Analysis, edition for OLAP ではサポートされていません。

7.3 リストビューをステータスでフィルタする

1. リソースから翻訳するコンテンツをインポートする。

2. [\[翻訳エディタ\]](#) ビューの左側にあるタブをクリックして、リストビューを開きます。
3. フィルタビューが開いていなければ、これを開きます。▶ [ウィンドウ](#) ▶ [フィルタビュー](#) ▶ を選択します。
4. 言語の一覧から、フィルタする言語を選択します。
5. ステータスカテゴリの一覧から、フィルタに適用するカテゴリを選択します。
6. 個々の XLIFF ステータスをフィルタに適用するには、カテゴリの一覧の[\[詳細\]](#)を選択します。
すべての XLIFF ステータスの一覧が表示されます。フィルタに適用するステータスのチェックボックスをオンにします。
リストビューの表示にフィルタが適用されます。

関連情報

[翻訳ステータス \[37 ページ\]](#)

[フィルタビューについて \[17 ページ\]](#)

7.4 セルのプロパティを変更する

1. リソースから翻訳するコンテンツをインポートする。
2. ▶ [Windows](#) ▶ [セルプロパティビュー](#) ▶ を選択して、セルプロパティビューを開きます。
3. 翻訳エディタビューで、ステータスを変更するセルをクリックします。
セルのプロパティがセルプロパティビューに表示されます。
4. XLIFF ステータスを変更するには、セルプロパティビューの[\[ステータス\]](#)プロパティの[\[値\]](#)列の一覧でステータスを選択します。

i 注記

セルのグループの XLIFF ステータスを変更するには、[\[ステータスの変更\]](#)ダイアログボックスを使用します。

5. 承認済みのステータスを変更するには、[\[承認\]](#)プロパティの[\[値\]](#)列の一覧で[\[真\]](#)または[\[偽\]](#)を選択します。

i 注記

トランスレーションマネジメントツールでは、[\[承認\]](#) プロパティは使用されません。XLIFF 翻訳ステータスの使用が推奨されます。

6. ▶ [ファイル](#) ▶ [保存](#) ▶ を選択します。

関連情報

[セルのステータスを変更する \[40 ページ\]](#)

[セルプロパティビューについて \[17 ページ\]](#)

7.5 セルのステータスを変更する

1. リソースから翻訳するコンテンツをインポートする。
2. 翻訳エディタビューで、ステータスを変更するセルが含まれる行をクリックします。
3. セクション内のすべてのセルを選択するには、セクションの最初の行を選択します。Shiftを押したまま、セクションの最後の行をクリックします。
4. 選択した行またはセクションを右クリックして、[ステータスの変更]を選択します。
5. [ステータスの変更]ダイアログボックスの[言語]の一覧で言語を選択します。
6. [ステータス]ボックスで新しいステータスを選択して、[OK]をクリックします。
7. ► **ファイル** ► **保存** ► を選択します。

i 注記

セルのステータスは、セルプロパティビューで変更することもできます。

8 XLIFF を使用したドキュメントの翻訳の交換

8.1 XLIFF ファイルについて

トランスレーションマネジメントツールでは、エクスポート時に選択した各ターゲット言語について XLIFF ファイルが作成されます。1つのソース言語と、エクスポート用の翻訳言語を任意の数だけ選択できます。

各 XLIFF ファイルのファイル名は、ソース言語とターゲット言語を使用して作成されます。

`<Document_name>.unv_en_US_DE.xlf` は、ドイツ語に翻訳される米国英語ファイル用のユニバースファイルです。Web Intelligence ドキュメントでは、形式は以下になります。

`<Document_name>.wid_en_US_DE.xlf`。

XLIFF ファイルには次のものが含まれています。

- ドキュメント情報
 - Central Management Server 名を含む完全ドキュメント名
 - ソースロケール
 - ターゲットロケール
 - ドキュメントの種類
- 各文字列に関する情報
 - 文字列識別子
 - ソース言語の文字列
 - 各翻訳言語の文字列、翻訳ステータス、およびロケール
 - 翻訳者用のメモ

i 注記

トランスレーションマネジメントツールは、XLIFF 仕様バージョン 1.2 に準拠します。

XLIFF ファイル形式の詳細については、OASIS Consortium Web サイトで入手できる XLIFF 標準を参照してください。

関連情報

OASIS Consortium (<http://www.oasis-open.org/>) ➡

8.2 XLIFF ファイルのエクスポートおよびインポート

翻訳をサードパーティの翻訳者またはベンダーへ送信する場合、XLIFF(XML Localization Interchange File Format)ファイルを使用してドキュメントを交換できます。

トランスレーションマネジメントツールで以下のワークフローを使用して、XLIFF ファイルを使用したドキュメント翻訳のアウトソーシングを行います。このワークフローの手順の詳細については、関連トピックを参照してください。

- ドキュメントを開くか、Central Management Server(CMS)からインポートします。
- [XLIFF にエクスポート](#) ウィザードを使用し、ドキュメントを XLIFF にエクスポートします。
- サードパーティから完了した XLIFF ファイルを受け取ったら、[XLIFF からインポート](#) ウィザードを使用し、このファイルをトランスレーションマネジメントツールドキュメントにインポートします。
- トランスレーションマネジメントツールを使用して、翻訳の表示や編集、ステータスの管理、ドキュメントの CMS へのインポートを行うことができます。

関連情報

[XLIFF にエクスポートする - ソースの選択 \[42 ページ\]](#)

[XLIFF にエクスポートする - ターゲットの選択 \[43 ページ\]](#)

[XLIFF ファイルからインポートする \[44 ページ\]](#)

8.3 XLIFF にエクスポートする - ソースの選択

エクスポートするドキュメントは、翻訳エディタビューで開いておく必要があります。XLIFF へのエクスポートウィザードが開いていなければ、これを開きます。[\[ファイル\]>\[XLIFF にエクスポート\]](#)を選択します。

- エクスポートするドキュメントをドキュメントの一覧で選択します。

注記

一度にエクスポートできるドキュメントは 1 つだけです。

- ドキュメントで使用する言語の一覧で、エクスポートする言語の横にあるボックスをオンにします。1 つまたは複数の言語をエクスポートできます。

他のロケールがまだ .tmgr ファイルの中に存在していない場合は、ロケールを追加できます。

注記

少なくとも 1 つの言語をエクスポートする必要があります。

- エクスポート言語の 1 つにソースオプションを選択します。

選択した言語は、XLIFF ファイルのソース言語です。エクスポートする他のすべての言語は、代替翻訳として XLIFF ファイルに含まれます。

4. 元のコンテンツをエクスポートする場合は、言語の一覧で元のコンテンツの言語を選択する必要があります。
5. [\[次へ\]](#)をクリックしてターゲット言語を選択し、エクスポートを続行します。

関連情報

[XLIFF にエクスポートする - ターゲットの選択 \[43 ページ\]](#)

[XLIFF ファイルについて \[41 ページ\]](#)

8.4 XLIFF にエクスポートする - ターゲットの選択

XLIFF にエクスポートウィザードを開始し、ソース言語を選択しました。エクスポートを続行するには、次の手順に従ってください。

1. [\[使用可能な言語\]](#)一覧でターゲット言語を選択し、右矢印をクリックします。
2. その他のターゲット言語も同じ方法で追加します。
トランスレーションマネジメントツールでは、ターゲット言語ごとに XLIFF ファイルが作成されます。
3. ターゲット言語を削除するには、[\[選択した言語\]](#)一覧で言語を選択し、左矢印をクリックします。
4. トランスレーションマネジメントツールでは、ローカルのデフォルトフォルダに XLIFF ファイルが作成されます。フォルダを変更するには、XLIFF ファイルフォルダのボックスに新しいフォルダを入力するか、参照します。
5. [\[完了\]](#)をクリックします。

i 注記

必須情報をすべて指定していない場合、[\[完了\]](#)ボタンをクリックすることはできません。少なくとも 1 つのターゲット言語を選択する必要があります。必要に応じて[\[戻る\]](#)ボタンを使用し、[\[XLIFF にエクスポート - ソースの選択\]](#)ダイアログボックスの手順を完了してください。

i 注記

すでに翻訳済みのターゲット言語またはドキュメントに追加済みの言語を選択した場合、他の翻訳者がその翻訳を見て、変更する可能性があります。その結果、XLIFF ファイルをインポートする際に警告メッセージが表示されます。

関連情報

[XLIFF にエクスポートする - ソースの選択 \[42 ページ\]](#)

[XLIFF ファイルについて \[41 ページ\]](#)

8.5 XLIFF ファイルからインポートする

[[XLIFF からインポート](#)]ウィザードが開いていなければ、開きます。[[ファイル](#)] > [[XLIFF からインポート](#)]を選択します。

1. XLIFF ファイルのインポート先のドキュメントを選択します。
2. 翻訳済みの XLIFF ファイルが保存されている XLIFF フォルダを入力するか、参照して選択します。
フォルダ内のすべての XLIFF ファイルの一覧が表示されます。ドキュメントと同じ名前でもフィルタリングする場合は、[[ドキュメント名によるフィルタ](#)]をチェックします。
3. インポートする XLIFF ファイルの横のボックスをチェックします。

インポートしようとしている XLIFF ファイルに関する情報が[[一致ステータス](#)]列に表示されます。

- XLIFF ファイルの言語がドキュメントに存在する場合は、警告メッセージが表示されます。インポートを続行しても構いませんが、すでに翻訳されている箇所は上書きされます。
- XLIFF ファイルが同じドキュメントからエクスポートされなかった場合は、メッセージが表示されます。インポートを続行しても構いませんが、内容の一部が破損する可能性があります。
- ドキュメントと XLIFF ファイルの一致に問題がなければ、[OK]というメッセージが表示されます。

4. [[完了](#)]をクリックします。

翻訳済みの言語が翻訳エディタビューと言語管理ビューに追加されます。

関連情報

[XLIFF ファイルについて \[41 ページ\]](#)

9 リファレンス

9.1 ロケールおよびその優先ロケールの一覧

表 5:

ロケール	ロケールの略語	優先ロケール
アフリカーンス語(南アフリカ)	af_ZA	af_ZA
アルバニア語(アルバニア)	sq_AL	sq_AL
アラビア語(アルジェリア)	ar_DZ	ar_SA
アラビア語(バーレーン)	ar_BH	ar_SA
アラビア語(エジプト)	ar_EG	ar_SA
アラビア語(イラク)	ar_IQ	ar_SA
アラビア語(ヨルダン)	ar_JO	ar_SA
アラビア語(クウェート)	ar_KW	ar_SA
アラビア語(レバノン)	ar_LB	ar_SA
アラビア語(リビア)	ar_LY	ar_SA
アラビア語(モロッコ)	ar_MA	ar_SA
アラビア語(オマーン)	ar_OM	ar_SA
アラビア語(カタール)	ar_QA	ar_SA
アラビア語(サウジアラビア)	ar_SA	ar_SA
アラビア語(シリア)	ar_SY	ar_SA
アラビア語(チュニジア)	ar_TN	ar_SA
アラビア語(アラブ首長国連邦)	ar_AE	ar_SA
アラビア語(イエメン)	ar_YE	ar_SA
アルメニア語(アルメニア)	hy_AM	hy_AM
アゼルバイジャン語(アゼルバイジャン)	az_AZ	az_AZ
バスク語(スペイン)	eu_ES	eu_ES
ベラルーシ語(ベラルーシ)	be_BY	be_BY
ベンガル語(インド)	bn_IN	bn_IN
ボスニア語(ボスニア・ヘルツェゴビナ)	bs_BA	bs_BA
ブルガリア語(ブルガリア)	bg_BG	bg_BG
カタロニア語(スペイン)	ca_ES	ca_ES

ロケール	ロケールの略語	優先ロケール
中国語(中国)	zh_CN	zh_CN
中国語(中国香港特别行政区)	zh_HK	zh_TW
中国語(中国マカオ特别行政区)	zh_MO	zh_TW
中国語(シンガポール)	zh_SG	zh_CN
中国語(台湾)	zh_TW	zh_TW
クロアチア語(クロアチア)	hr_HR	hr_HR
チェコ語(チェコ共和国)	cs_CZ	cs_CZ
デンマーク語(デンマーク)	da_DK	da_DK
オランダ語(ベルギー)	nl_BE	nl_NL
オランダ語(オランダ)	nl_NL	nl_NL
英語(オーストラリア)	en_AU	en_US
英語(ベリーズ)	en_BZ	en_US
英語(カナダ)	en_CA	en_US
英語(アイルランド)	en_IE	en_US
英語(ジャマイカ)	en_JM	en_US
英語(ニュージーランド)	en_NZ	en_US
英語(フィリピン)	en_PH	en_US
英語(南アフリカ)	en_ZA	en_US
英語(トリニダードトバゴ)	en_TT	en_US
英語(米国バージン諸島)	en_VI	en_US
英語(イギリス)	en_GB	en_US
英語(米国)	en_US	en_US
英語(ジンバブエ)	en_ZW	en_US
エストニア語(エストニア)	et_EE	et_EE
フェロー語(フェロー諸島)	fo_FO	fo_FO
フィンランド語(フィンランド)	fi_FI	fi_FI
フランス語(ベルギー)	fr_BE	fr_FR
フランス語(カナダ)	fr_CA	fr_FR
フランス語(フランス)	fr_FR	fr_FR
フランス語(ルクセンブルグ)	fr_LU	fr_FR
フランス語(モナコ)	fr_MC	fr_FR
フランス語(スイス)	fr_CH	fr_FR
ガリシア語(スペイン)	gl_ES	gl_ES

ロケール	ロケールの略語	優先ロケール
グルジア語(グルジア)	ka_GE	ka_GE
ドイツ語(オーストリア)	de_AT	de_DE
ドイツ語(ドイツ)	de_DE	de_DE
ドイツ語(リヒテンシュタイン)	de_LI	de_DE
ドイツ語(ルクセンブルグ)	de_LU	de_DE
ドイツ語(スイス)	de_CH	de_DE
ギリシャ語(ギリシャ)	el_GR	el_GR
グジャラート語(インド)	gu_IN	gu_IN
ヘブライ語(イスラエル)	he_IL	he_IL
ヒンディー語(インド)	hi_IN	hi_IN
ハンガリー語(ハンガリー)	hu_HU	hu_HU
アイスランド語(アイスランド)	is_IS	is_IS
インドネシア語(インドネシア)	id_ID	id_ID
イタリア語(イタリア)	it_IT	it_IT
イタリア語(スイス)	it_CH	it_IT
日本語(日本)	ja_JP	ja_JP
カンナダ語(インド)	kn_IN	kn_IN
カザフ語(カザフスタン)	kk_KZ	kk_KZ
コンカニ語(インド)	kok_IN	kok_IN
韓国語(韓国)	ko_KR	ko_KR
ラトビア語(ラトビア)	lv_LV	lv_LV
リトアニア語(リトアニア)	lt_LT	lt_LT
マケドニア語(マケドニア)	mk_MK	mk_MK
マレー語(ブルネイ)	ms_BN	ms_MY
マレー語(マレーシア)	ms_MY	ms_MY
マラヤーラム語(インド)	ml_IN	ml_IN
マルタ語(マルタ)	mt_MT	mt_MT
マラーティー語(インド)	mr_IN	mr_IN
モンゴル語(モンゴル)	mn_MN	mn_MN
北サーミ語(ノルウェー)	se_NO	se_NO
ノルウェーブークモール語(ノルウェー)	nb_NO	nb_NO
ノルウェーニーノシュク語(ノルウェー)	nn_NO	nn_NO
ペルシャ語(イラン)	fa_IR	fa_IR

ロケール	ロケールの略語	優先ロケール
ポーランド語(ポーランド)	pl_PL	pl_PL
ポルトガル語(ブラジル)	pt_BR	pt_BR
ポルトガル語(ポルトガル)	pt_PT	pt_BR
パンジャブ語(インド)	pa_IN	pa_IN
ルーマニア語(ルーマニア)	ro_RO	ro_RO
ロシア語(ロシア)	ru_RU	ru_RU
セルビア語(ボスニアヘルツェゴビナ)	sr_BA	sr_BA
セルビア語(セルビア・モンテネグロ)	sr_CS	sr_BA
スロバキア語(スロバキア)	sk_SK	sk_SK
スロベニア語(スロベニア)	sl_SI	sk_SK
スペイン語(アルゼンチン)	es_AR	es_ES
スペイン語(ボリビア)	es_BO	es_ES
スペイン語(チリ)	es_CL	es_ES
スペイン語(コロンビア)	es_CO	es_ES
スペイン語(コスタリカ)	es_CR	es_ES
スペイン語(ドミニカ共和国)	es_DO	es_ES
スペイン語(エクアドル)	es_EC	es_ES
スペイン語(エルサルバドル)	es_SV	es_ES
スペイン語(グアテマラ)	es_GT	es_ES
スペイン語(ホンジュラス)	es_HN	es_ES
スペイン語(メキシコ)	es_MX	es_ES
スペイン語(ニカラグア)	es_NI	es_ES
スペイン語(パナマ)	es_PA	es_ES
スペイン語(パラグアイ)	es_PY	es_ES
スペイン語(ペルー)	es_PE	es_ES
スペイン語(プエルトリコ)	es_PR	es_ES
スペイン語(スペイン)	es_ES	es_ES
スペイン語(ウルグアイ)	es_UY	es_ES
スペイン語(ベネズエラ)	es_VE	es_ES
スワヒリ語(ケニア)	sw_KE	sw_KE
スウェーデン語(フィンランド)	sv_FI	sv_SE
スウェーデン語(スウェーデン)	sv_SE	sv_SE
シリア語(シリア)	syr_SY	syr_SY

ロケール	ロケールの略語	優先ロケール
タミール語(インド)	ta_IN	ta_IN
テルグ語(インド)	te_IN	te_IN
タイ語(タイ)	th_TH	th_TH
ツワナ語(南アフリカ)	tn_ZA	tn_ZA
トルコ語(トルコ)	tr_TR	tr_TR
ウクライナ語(ウクライナ)	uk_UA	uk_UA
ウズベグ語(ウズベキスタン)	uz_UZ	uz_UZ
ベトナム語(ベトナム)	vi_VN	vi_VN
ウェールズ語(英国)	cy_GB	cy_GB
コーサ語(南アフリカ)	xh_ZA	xh_ZA
ズールー語(南アフリカ)	zu_ZA	zu_ZA

9.2 数値書式トークン

数値書式の定義

数値書式の定義は、次のセクションで構成されています。

- 符号(オプション)
- 小数点の左側の整数値
- 整数値に挿入される区切り記号
- 小数点(オプション)
- 小数点の右側的小数値(オプション)
- 指数記号とそれに続く指数値(オプション)

整数値、小数値、指数値で表示する有効数字の数を定義するには、2種類のトークンを使用します。書式定義の各トークンは、表示する数字を表します。

- 必須の数字トークン **0** は、有効の場合はその数字を、それ以外の場合は 0 を表示します。
- オプションの数字トークン **#** は、有効の場合のみその数字を表示します。

有効数字を決定する場合、整数値と指数値は右から左に評価されます。小数値は、左から右に評価されます。残りの数字が存在する場合は、最後の **0** または **#** は、残りの数字にマップされます。

例

数値書式の表示

この例は、書式エディタで定義された異なる書式を使用して -1,234 を表示する方法について示します。

トークンで定義される書式	プレビュー表示
[符号][#]	-1234
[負数の開始][0][0][0][0][0][0][負数の終了]	(001234)
[常に符号付き][#][小数点][0][0]	-1234.00
[符号][#][小數位区切り文字][0][0][E+][0][0][0]	-1.23E+003
Revenue: [常に符号付き][#][Decimal separator][0][0]	売上げ: -1234.00 €
[論理値]	正

数値書式トークンの一覧

表 6:

カテゴリ	トークン	説明
符号	サイン	値が負の場合は、負の符号です。値が正またはゼロの場合は、何も付きません。
	常に符号付き	値が負の場合は、負の符号です。値が正またはゼロの場合は、正の符号です。
	負数の開始	値が負の場合は、開きかっこです。値が正またはゼロの場合は、何も付きません。
	負数の終了	値が負の場合は、閉じかっこです。値が正またはゼロの場合は、何も付きません。
桁	#	オプションの数字です。有効な場合は、その数字を表示します。
	0	必須の数字です。有効な場合は、その数字を表示します。それ以外の場合は、0 を表示します。
区切り	小數位区切り文字	数字の正数部と小数部を区切るために使用する記号。使用する記号は、ロケールによって決定します。小數位区切り文字は、表現式内で 1 度だけ使用できます。
	グループ化	デフォルトでは、数字はロケールによって定義されるルールおよび区切り記号によってグループ化されます。グループ化記号は、表現式内で 1 度だけ使用できます。小数点よりも左に表示される必要があります。
指数	E+	指数符号は、常に符号付きの大文字です。1 つの式で使用できるのは、1 回のみです。
	E-	指数符号は大文字です。値が負の場合のみ、符号が付きます。1 つの式で使用できるのは、1 回のみです。
	e+	指数符号は、常に符号付きの小文字です。1 つの式で使用できるのは、1 回のみです。
	e-	指数符号は小文字です。値が負の場合のみ、符号が付きます。1 つの式で使用できるのは、1 回のみです。
パーセント	パーセント	100 を乗じた値です。
	パーセント %	100 を乗じた値の後ろにパーセント記号(%)が付いた値です。1 つの式で使用できるのは、1 回のみです。
ブール	論理値	数値がゼロではない場合は True のローカライズされた値、数値がゼロの場合は False のローカライズされた値です。

カテゴリ	トークン	説明
	正	常にローカライズされた True の値を表示します。
	誤	常にローカライズされた False の値を表示します。

9.3 日付および時刻の書式トークン

例

日付および時刻の書式の表示

この例は、カスタム書式エディタで定義された書式とは異なる書式で、2008 年 3 月 5 日水曜日を表示する方法について示します(英語固有の書式があるため、例は英語で表記)。

トークンで定義される書式	プレビュー表示
[曜日名], [月の名前][01 ~ 31 日][0000 ~ 9999 年]	Wednesday, March 05 2008
[01 ~ 12 月]/[01 ~ 31 日]/[0000 ~ 9999 年]	03/05/2008
[曜日名(頭字大文字の略称)][01 ~ 31 日][月の名前(頭字大文字の略称)]	Wed 05 Mar
[曜日名], week[年間の週(01 ~ 53)]	Wednesday, week 10
現在の日付は、[曜日名], [月の名前][01 ~ 31 日][0000 ~ 9999 年]です。曜日名は、[曜日名の頭字大文字表記]です。月の名前は、[月の名前(小文字)]です。年は、[00 ~ 99 年]です。	現在の日付は、Wednesday, March 05 2008 です。曜日名は、WEDNESDAY です。月の名前は、march です。年は、08 です。

日付および時刻のトークンの一覧

表 7:

カテゴリ	トークン	説明
日	01 ~ 31 日	01 から 31 までの 2 桁で表される日付。
	1 ~ 31 日	1 から 31 までの 1 桁または 2 桁で表される日付。
	曜日名	ロケールに応じた曜日名。たとえば、Monday です。
	曜日名の略称	ロケールに応じた、先頭が大文字の曜日の略称。たとえば、Mon です。
	年間の日(001 ~ 366)	001 から 366 の 3 桁で表される年間の日。
	年間の日(01 ~ 366)	01 から 366 の 2 桁または 3 桁で表される年間の日。
	年間の日(1 ~ 366)	1 から 366 の 1 桁、2 桁または 3 桁で表される年間の日。

カテゴリ	トークン	説明
	月内の曜日の番号	ロケールに応じた月の曜日の番号。たとえば、3rd Monday of June の場合は 3 です。
	曜日名の大文字表記	大文字の曜日。たとえば、MONDAY です。
	曜日名の小文字表記	小文字の曜日。たとえば、monday です。
	曜日名の頭字大文字表記	先頭が大文字の曜日。たとえば、Monday です。
	曜日名の略称の大文字表記	曜日の大文字の略称。たとえば、MON です。
	曜日名の略称の小文字表記	曜日の小文字の略称。たとえば、mon です。
	曜日名(頭字大文字の略称)	先頭が大文字の曜日の略称。たとえば、Mon です。
月	01 ~ 12 月	01 から 12 の 2 桁で表される月。
	1 ~ 12 月	1 から 12 の 1 桁または 2 桁で表される月。
	月の名前	ロケールに応じた、先頭が大文字の月の名前。たとえば、June です。
	月の名前(略称)	ロケールに応じた、先頭が大文字の月の名前の略称です。たとえば、Jun です。
	月の名前(大文字)	大文字の月の名前。たとえば、JUNE です。
	月の名前(小文字)	小文字の月の名前。たとえば、june です。
	月の名前(先頭大文字)	先頭が大文字の月の名前。たとえば、June です。
	月の名前(大文字の略称)	大文字の月の略称。たとえば、JUN です。
	月の名前(小文字の略称)	小文字の月の略称。たとえば、jun です。
	月の名前(頭字大文字の略称)	先頭が大文字の月の略称。たとえば、Jun です。
年および年号	00 ~ 99 年	00 から 99 の 2 桁で表される年。
	0000 ~ 9999 年	0000 から 9999 の 4 桁で表される年。
	元号と年	日本の元号と年を表す数値。たとえば、 平成 20 。
	元号(英語表記)と年	元号(英語略称)と年を表す数値。たとえば、 <i>H20</i> です。
	元号 01 ~ 99 年	2 桁で表される元号の年。
	元号 1 ~ 99 年	1 桁または 2 桁で表される日本の元号の年。
	元号	日本の元号。
	元号年	現在は使用しません。[元号 0 ~ 99 年]トークンと同じ結果を返します。
	紀元	紀元前、紀元後の省略記号。たとえば、AD または BC です。
週	月間の週	1 から 6 の 1 桁で表される月間の週番号。
	年間の週(01 ~ 53)	01 から 53 の 2 桁で表される年間の週番号(ISO 週番号)。
	年間の週(1 ~ 53)	1 から 53 の 1 桁または 2 桁で表される年間の週番号(ISO 週番号)。

カテゴリ	トークン	説明
	年間の週の年(0000)	0000 から 9999 の 4 桁で表される ISO 年番号(ISO 週番号と同じ)。
	年間の週の年(00)	00 から 99 の 2 桁で表される ISO 年番号(ISO 週番号と同じ)。
四半期および半期	四半期の番号(1 ~ 4)	1 から 4 の 1 桁で表される四半期の番号。
	四半期の略称	Q1 から Q4 で表される四半期の略称。
	四半期の名前	第 1 四半期から第 2 四半期で表される四半期の名前。
	半期 1 または 2	1 または 2 で表される半期の番号。
時	00 ~ 23 時	00 から 23 までの 2 桁で表される 24 時間形式の時間。
	0 ~ 23 時	0 から 23 までの 1 桁または 2 桁で表される 24 時間形式の時間。
	01 ~ 12 時	01 から 12 までの 2 桁で表される 12 時間形式の時間。
	1 ~ 12 時	1 から 12 までの 1 桁または 2 桁で表される 12 時間形式の時間。
	01 ~ 24 時	01 から 24 までの 2 桁で表される 24 時間形式の時間。
	1 ~ 24 時	1 から 24 までの 1 桁または 2 桁で表される 24 時間形式の時間。
	00 ~ 11 時	00 から 11 までの 2 桁で表される 12 時間形式の時間。
	0 ~ 11 時	0 から 11 までの 1 桁または 2 桁で表される 12 時間形式の時間。
分	00 ~ 59 分	00 から 59 までの 2 桁で表される分。
	0 ~ 59 分	0 から 59 までの 1 桁または 2 桁で表される分。
秒、ミリ秒など	00 ~ 59 秒	00 から 59 までの 2 桁で表される秒。
	0 ~ 59 秒	0 から 59 までの 1 桁または 2 桁で表される秒。
	000 ~ 999 ミリ秒	000 から 999 までの 3 桁で表されるミリ秒。
	100 分の 1 秒(000 ~ 999)	00 から 99 までの 2 桁で表される 100 分の 1 秒。
	10 分の 1 秒(0 ~ 9)	1 から 9 までの 1 桁で表される 10 分の 1 秒。
タイムゾーン	タイムゾーン	協定世界時からの補整値。たとえば、GMT+00:00 です。
AM/PM	AM/PM	ロケールに応じた、先頭が大文字の午前/午後の略語。たとえば、AM または PM です。推奨。
	大文字 AM/PM	大文字の午前/午後の略語。たとえば、AM または PM です。
	小文字 am/pm	小文字の午前/午後の略語。たとえば、am または pm です。
	先頭大文字の Am/Pm	先頭が大文字の午前/午後の略語。たとえば、Am または Pm です。非推奨。

カテゴリ	トークン	説明
区切り文字	日付区切り文字	現在は使用しません。このトークンは、Desktop Intelligence で日付区切り文字として使用されていましたが、推奨されません。日付区切り文字として使用する文字を形式記述に直接入力するか、デフォルトの書式を使用します。
	時刻区切り文字	現在は使用しません。このトークンは、Desktop Intelligence で時刻区切り文字として使用されていましたが、推奨されません。時刻区切り文字として使用する文字を形式記述に直接入力するか、デフォルトの書式を使用します。

9.4 トランスレーションマネジメントツールでサポートされる InfoObject の種類

ほとんどのタイプの InfoObject の説明、または名前および説明を翻訳することができます。このツールは次のタイプの InfoObject をサポートします。

表 8:

オブジェクトタイプ	翻訳可能なプロパティ
Agnostic	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
カレンダー	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
カテゴリ	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
CustomRole	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
EnterpriseNode	SI_ML_DESCRIPTION
イベント	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
Excel	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
FavoritesFolder	SI_ML_DESCRIPTION
フォルダ	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
ハイパーリンク	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
受信ボックス	SI_ML_DESCRIPTION
Manifest	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
ObjectPackage	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
Pdf	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
PersonalCategory	SI_ML_DESCRIPTION
プロファイル	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
プログラム	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
パブリケーション	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION

オブジェクトタイプ	翻訳可能なプロパティ
QaaWS	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
RemoteCluster	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
レプリケーション	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
RTF	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
サーバ	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
ServerGroup	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
ショートカット	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
Txt	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
ユーザ	SI_ML_DESCRIPTION
UserGroup	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
Word	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION
Universe (.unv)	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION、ユニバースのコンテンツ
データファンデーション	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION、データファンデーションのコンテンツ
ビジネスレイヤ	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION、ビジネスレイヤのコンテンツ
Web Intelligence ドキュメント	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION、Web Intelligence ドキュメントのコンテンツ
Crystal Reports for Enterprise ドキュメント	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION、Crystal Reports for Enterprise ドキュメントのコンテンツ
Xcelsius	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION、Xcelsius ドキュメント自体
Dashboard	SI_ML_NAME、SI_ML_DESCRIPTION、InfoObject に保存されている一部のプロパティ
Analysis, edition for OLAP	ワークスペース名および説明、分析名およびサブ分析名、シート名

重要免責事項および法的情報

コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼働システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証を行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。



www.sap.com/contactsap

© 2015 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。